

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年7月17日（土）午後7時00分～8時00分
場 所 阪谷小学校 体育館
出席者 阪谷小学校区住民 1名 陽明中学校長 尚徳中学校長
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 資料の2ページだが、これは学校再編と関係なく、今の教育にはこういうことが必要だということだと思うのだが。

市教委 その通りで、大野の教育を考えるに当たって、基本的に大野が目指す教育をまずはっきりしようと、そこから始めた。

参加者 住所が阪谷にあるのに、他の学校に行っているということを知ったことがある。それは良いのか。地区にある学校ではなく、例えば、親が市街地に勤めているために、他の学校に行くというのは問題ないのか。

市教委 基本的には、その地区の学校に行くということが原則となっている。ただし、それ以外に違う学校へ行くという事例もあり、それは指定学校の変更と言う。例えば、日中に父母や祖父母が家に居ない、いわゆる昼間留守家庭では、子どもが学校から戻ってきた時に誰も面倒を見る人がいないので非常に心配である。このため、保護者が市街地にお勤めされていて、お子さんを送り迎えできるのでという形など、いくつかの条件はあるが、学校の指定を変更することは可能である。

参加者 国は1学級35名とした。去年の国会で通ったと思う。地元としては、今まであった学校が無くなるのは寂しい。しかし、仕方がない状況だと思う。

小浜では美郷小学校ができて4校が1校になった。それから勝山も再編の話がでていた。去年だと波松小学校が北潟小学校と統合した。県内のどこに行っても統合の話が出ていた。

一番初めにここで説明があった時は50人くらいいたが、大半の人が学校再編に反対の人だったのではないかなと思う。今はこのような時代ならもう仕方がないのかなと思う。学校もだんだん古くなってくるし、そういうのは社会の流れだと思う。

昔は小学校がいっぱいあった。勝原だけでも下打波、上打波、嵐にあった。当然勝原にもあった。大谷、箱ヶ瀬、下山、後野にもあった。今、自分が住ん

でいる集落に家は40件あるが、子どもは2人だけしかいないような状態。そのようなことを思うと、再編に対して反対と言う時期じゃないのではないかと自分は思う。学校が無くなるのは寂しいが、再編して人数が多くなれば、専門教科の先生もいて、十分教育も行きわたるのではないかと思うし、1人や2人で競争するよりも10人いた方が、もっと競争するようになると思う。

慎重な検討は必要かとは思いますが、もう踏ん張る時期じゃないのではないかと思う。

市教委 反対や賛成、あるいは別の案など、さまざまな意見があって当然だと思うが、今力強く応援していただけることはありがたい。ここに至るまでは十分にさまざまな所で意見を聞いた。施設ありきではないが、校舎の老朽化も見据えながらさまざまに検討した。そして、子どもの数が減ったので再編するということではなく、大野市の教育はこうあるべきだということから再編を進めている。当然地元から学校が無くなるということは本当に辛いことだと思うが、まず子どもを優先して、そのために大人が決断するというところでここまで来ている。慎重に丁寧にそして着実に進めさせていただきたいと思うので、応援をよろしく願います。

参加者 今日、地元は自分1人だけだが、積み重ねていけばみんな気持ち的にだんだん変わってくるのかなという気がしなくもない。今日来ないということは、皆賛成だと思う。それは確かに遠いところに行くより地元の方が良いと思う。ただ子どものことを考えたら、やはりそれなりに設備が整ったところが良いと思うし、気の合う友達もできると思うし、その方が自分は良いと思う。県内で再編の話は出てきている。例えば小浜が4校を1校にした時も、そのような話が、あったのかどうかということは、全然耳に入らなかった。すんなりいったのかもしれない。大野は時間が掛かり過ぎているのかなとも思わないでもない。美山にしても、美山啓明小学校があつという間にできた。

市教委 小浜市の話は10年も20年も前から進めていた。一度案が出たけれど、それが立ち消えになった経緯もあった。そして4校が1校になったのも、遠くから見てみると、簡単そうに見えるが、これは話を聞き報告を読むと、長い時間がかかって一つの形になったと思っている。大野市の場合も、時間はかかったように見えるが、私は必要な時間だったと思っている。そして、今こうして多くの方が賛成だというようなことをおっしゃっていただける状況かとは思いますが、この前に、反対や賛成、もっと良い方法がないかなど、教育委員会も含めてだが、しっかり議論していただいた。そのような過程のバトンを私たちは引き継いで、その歴史の中に私たちは居させていただくのだと思っている。

そして、今年の4月1日から、乾側小学校も下庄小学校と一緒になった。それも外から見てみると簡単そうに見えて、今回のこの再編も、もっと早くでき

ないかという方もいる。しかし、実際にやってみるとそう簡単なものではない。大小という学校の規模はあるが、あくまでも一対一の再編である。そして校区と校区を一緒にすることなので、これは簡単ではない。やはり地元の方や保護者の方、そして子どもたちのことをしっかり胸にとめて、慎重に丁寧にということが必要だと思っている。そしてご理解がいただけたら、着実にしっかり進めていきたいと思っている。

参加者　　そういった話が全然耳に入らないので、簡単に進んでいるように思っていた。大野の場合は新聞にも出ていたが、他の市はあまり見たことがなく、大野だけが苦しんでいるのかと思っていたのでお聞きした。

市教委　　決して大野だけではないと思う。他市町の教育長と話をすることもあるが、それぞれ悩みながらやっているということは手に取るように分かる。やはり、大野のことは市民が一生懸命考えないといけない。外から助けていただけのわけではないので、皆で悩みながら一生懸命やらせていただきたいと思う。私たちが遠くのことをあまり知らないように、他地区の方も大野のことをあまり知らないと思う。そういった意味では、大野市民一致団結して、目指す教育環境や地域づくりをしっかりやっていきたいと思う。

参加者　　頑張ってやっていただきたい。

④閉会のあいさつ（事務局長）